

平成 25 年度安全研究成果評価票

平成 26 年 9 月

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-1. 安全解析手法、解析コードの整備	
プロジェクト名	(A11) 安全評価技術の整備、核特性評価技術の整備 (Phase-2)	
実施期間	平成 25 年度～平成 28 年度	
担当課	安全技術管理官 (システム安全担当) 付	
プロジェクトの計画 (平成 25 年度) に対する達成状況	達成状況	特記事項
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成 26 年度の方針	<input type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 ^{注)}	
	コメント	本プロジェクトは、新規制基準に基づく安全審査において、重大事故対策の有効性評価及びそれに係る解析評価に活用される研究であり、今後とも継続していくべきである。
特記事項		

注) 継続 : 平成 26 年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成 26 年度に計画の一部を見直した上で (プロジェクトの統合を含む。) 継続すべきプロジェクト

終了 : 平成 25 年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-1 安全解析手法、解析コードの整備	
プロジェクト名	(A12) 被ばく評価手法の高度化研究	
実施期間	平成17年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（シビアアクシデント担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。重大事故時の制御室・緊急時対策所の居住性の審査ガイド（有毒ガスを除く）が作成された。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 ^{注)}	
	コメント	<p>新規基準の安全審査に活用される研究であり、一部を除き今後とも継続していくべきである。</p> <p>本プロジェクトの研究の一つである有効放出高さの数値シミュレーションについては、原子力規制委員会としての優先度が低いと考えられることから、継続の要否も含め、再検討を行うこと。</p> <p>研究計画には、早期に制御室・緊急時対策所の居住性に係る標準評価ガイド（有毒ガス）及びそれに伴う解析コードを整備し、バックフィットに活用すること等を明記すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-1. 安全解析手法、解析コードの整備	
プロジェクト名	(A13) 国産システムコード開発	
実施期間	平成24年度～平成30年度	
担当課	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	<input type="checkbox"/> 継続 ・ <input type="checkbox"/> 見直し ・ <input type="checkbox"/> 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、多重故障まで拡張した事故解析等に活用される国産コードの開発を行うものであり、今後とも継続していくべきである。</p> <p>本国産システムコードの開発は、我が国として継続的かつ安定的に、設計基準事象及び多重故障事象に関して最新知見に基づく審査を行い、規制を高度化するために不可欠な研究である。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-1. 安全解析手法、解析コードの整備	
プロジェクト名	(A14) 多重故障事象の安全評価手法の整備	
実施期間	平成 25 年度～平成 27 年度	
担当課	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成 25 年度）に対する達成状況	達成状況	特記事項
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	<p>本プロジェクトは計画通り進捗している。成果として得られた PWR の多重故障事象に係る技術的知見が、新規制基準適合性審査に活用されていることは、特に評価できる。</p>
対外状況の変化	対外状況の変化	
	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成 26 年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ <input type="checkbox"/> 見直し ・ <input type="checkbox"/> 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、多重故障の安全審査に活用される研究であり、今後とも継続し、適時に成果を得るべきである。今後、BWR の多重故障事象に係る技術的知見を更に収集し、最新知見に基づく審査を行う必要があることから、本プロジェクトの重要性は高い。</p> <p>なお、解析に用いる事故シーケンスについては、密接に関係する PRA 関連の研究と連携をとること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成 26 年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成 26 年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成 25 年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-3. 重大事故に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A21) 使用済燃料プールの規制課題に関する安全研究 (Phase-1)	
実施期間	平成24年度～平成27年度	
担当課	安全技術管理官 (システム安全担当) 付	
プロジェクトの計画 (平成25年度) に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトでは、外部注水に関する研究と未臨界性に関する研究が実施されている。前者は、新規性基準において重大事故等対策として設置が要求されているスプレイによる外部注水に関する研究であり、今後とも継続していくべきである。</p> <p>一方、未臨界性に関する研究については、原子力規制委員会としての優先度が低いと考えられることから、継続の要否も含め、再検討を行うこと。</p> <p>今後の研究計画には、規制部等のニーズに則して、成果の活用方法をより具体的に明記すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で (プロジェクトの統合を含む。) 継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-2. 使用済燃料の臨界防止に係る定量的評価に必要な技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A22) 使用済燃料の臨界防止裕度の定量的な評価 (Phase-1)	
実施期間	平成25年度～平成27年度	
担当課	安全技術管理官 (システム安全担当) 付	
プロジェクトの計画 (平成25年度) に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは将来の燃焼度クレジットを取り入れた臨界安全評価の審査に活用される研究であり、今後も継続していくべきである。</p> <p>JAEA や海外の研究機関に本研究に関連する多くの技術的知見が蓄積されていることから、これらの機関と積極的な連携を図る方向で検討すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で (プロジェクトの統合を含む。) 継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-4. 燃料の規制基準に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A31) 燃料破損限界試験	
実施期間	平成19年度～平成27年度	
担当課	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成	<p>出力急昇試験を除き、本プロジェクトは計画通り進捗している。</p> <p>出力急昇試験については、試験用燃料棒を海外へ移送するための船積み港が、東日本大震災により被災し、その復旧が遅れているため、試験用燃料棒を輸送できない状態が続いており研究を進めることができなかった。</p>
対外状況の変化	対外状況の変化	
	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	東日本大震災により被災した船積み港の復旧作業の遅延
平成26年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、燃料健全性に関する規制基準の検証に必要な知見を収集する研究であり、今後とも継続していくべきである。</p> <p>ただし、出力急昇試験については、船積み港の復旧の目処が立たない場合は、研究の代替手段を検討すること。</p> <p>また、JAEA 安全研究センターと連携をとりつつ研究を遂行すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-4. 燃料の規制基準に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A32) 混合酸化物燃料特性評価試験	
実施期間	平成19年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、MOX 燃料の安全審査に活用される研究であり、今後とも継続していくべきである。</p> <p>研究計画には、事業者等から本プロジェクトより得られる結果に関する申請がなされると想定される時期等を可能な限り考慮し、成果の活用時期等を明記すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-4. 燃料の規制基準に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A33) 事故時燃料冷却性評価試験	
実施期間	平成24年度～平成30年度	
担当課	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、現行の LOCA 基準の検証に必要な知見を取得するための研究であり、今後とも継続していくべきである。</p> <p>研究計画には、プロジェクトの成果として基準の改訂案のみならず、その判断根拠、解説書をあわせて整備することを明記すること。</p> <p>また、JAEA 安全研究センターと連携をとりつつ研究を遂行すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-1. 基準地震動策定及び地震動・地盤評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A41) 震源断層評価技術の整備	
実施期間	平成22年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（地震・津波担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。JNES-RE レポート「活断層の位置・形状評価及び活動性評価に関する手法の整備」が公表された。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・無	
平成26年度の方針	継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、新規制基準に示された活断層評価等の審査に活用される研究であり、今後とも継続していくべきである。</p> <p>研究計画には、新規制基準適合性審査、安全性向上評価等成果の活用先を明記すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-1. 基準地震動策定及び地震動・地盤評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A42) 地震動評価技術の整備	
実施期間	平成22年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（地震・津波担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	<p>本プロジェクトは計画通り進捗している。成果を取りまとめた JNES-RE レポート「震源を特定せず策定する地震動に係る評価手引き」、「地震動評価のための三次元地下構造モデルの作成手引き」等が公表された。これらのレポートは、新規基準の適合性審査等に活用されており、特に評価できる。</p>
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは基準地震動や断層変位の評価に関する具体的判断根拠等を整備するための研究であり、今後も継続していくべきである。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-2. 基準津波策定及び津波評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A43) 津波ハザード関連評価技術の整備	
実施期間	平成19年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（地震・津波担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。 JNES-RE レポートとして「確率論的手法に基づく基準津波策定手引き」等が公表された。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・無	
平成26年度の方針	継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、基準津波及び耐津波設計に関する審査に活用される研究であり、今後とも継続していくべきである。 研究計画には、本プロジェクトの成果が安全性向上評価に具体的にどのように活用されるか明記すること。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-3. 地震・津波等に対する構造健全性評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A51) 外的事象に係る構造健全性関連評価技術の整備	
実施期間	平成22年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（地震・津波担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。 JNES-RE レポート「津波に対する構造設計・リスク評価手引き」等が公表された。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 ^{注)}	
	コメント	本プロジェクトは、新規規制基準等における構造健全性評価に活用される研究であり、今後とも継続していくべきである。 ただし、フラジリティに関する研究については、「地震・津波に係る調査・試験に基づく耐力評価関連技術の整備」においても本プロジェクトと関連する研究が実施されており、これらを整理すること。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-3. 地震・津波等に対する構造健全性評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A52) 地震・津波等の影響を考慮した経年化関連評価技術の整備	
実施期間	平成19年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（地震・津波担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、経年事象を考慮したフラジリティ評価に関する研究であり、今後とも継続していくべきである。</p> <p>ただし、「地震・津波等に係るリスク評価関連手法等の整備」及び「外的事象に係る原子力防災関連評価技術・原子力リスクのコミュニケーション手法等の整備」においても本プロジェクトと関連する研究が実施されており、これらを整理すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-3. 地震・津波等に対する構造健全性評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A53) 地震・津波に係る調査・試験に基づく耐力評価関連技術の整備	
実施期間	平成22年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（地震・津波担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	<p>本プロジェクトは計画通り進捗している。安全研究成果として、技術報告及び技術的知見が整理されている。特に防潮堤の耐力試験においては、25年度の試験より津波の波圧分布等について新知見が収集されており、特に評価できる。</p>
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、ガスタービンの耐震健全性に関する試験を除き、新規制基準適合性審査や安全性向上評価のための知見を蓄積・整備することを目的とした研究であり、今後とも継続していくべきである。</p> <p>新規制基準に基づく防潮堤の耐力に関する審査に向けて、防潮堤に作用する段波波圧と持続波圧に関する評価手法の整備が必要となることから、本プロジェクトの重要性は高い。</p> <p>ガスタービンの耐震健全性に関する試験については、原子力規制委員会としての優先度が低いことから、計画を中止すること。</p> <p>また、フラジリティに関する研究については、「外的事象に係る構造健全性関連評価技術の整備」においても本プロジェクトと関連する研究が実施されており、これらを整理すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-6. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象のリスク評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A61) 地震・津波等に係るリスク評価関連手法等の整備	
実施期間	平成19年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（地震・津波担当）付 安全技術管理官（シビアアクシデント担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 ^{注)}	
	コメント	<p>本プロジェクトは、マルチハザード及びマルチユニット／マルチサイトのレベル1から3までのリスク評価手法の整備を目的とした研究であり、国会等の福島第一原子力発電所事故に関する報告書においてもリスク情報活用の必要性に言及されているところ、今後とも継続していくべきである。</p> <p>「地震・津波等の影響を考慮した経年化関連評価技術の整備」及び「外的事象に係る原子力防災関連評価技術・原子力リスクのコミュニケーション手法等の整備」においても本プロジェクトと関連する研究が実施されており、これらを整理すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-6. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象のリスク評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(A62) 外的事象に係る原子力防災関連評価技術・原子力リスクのコミュニケーション手法等の整備	
実施期間	平成 21 年度～平成 28 年度	
担当課	安全技術管理官（地震・津波担当）付	
プロジェクトの計画（平成 25 年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・無	
平成 26 年度の方針	継続 ・ <u>見直し</u> ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトのうち、リスクコミュニケーションに関する研究については、原子力規制委員会としての優先度が低いと考えられることから、継続の要否も含め、再検討を行うこと。</p> <p>また、「地震・津波等の影響を考慮した経年化関連評価技術の整備」及び「地震・津波等に係るリスク評価関連手法等の整備」においても本プロジェクトと関連する研究が実施されており、これらを整理すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成 26 年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成 26 年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成 25 年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(A71) 高速炉（もんじゅ）に対する SA 対策-I までの安全審査要件の整備	
実施期間	平成 25 年度～平成 29 年度	
担当課	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成 25 年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成 26 年度の方針	継続 ・ <input type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、高速炉（もんじゅ）の重大事故等対策の安全審査に活用される研究であり、今後も継続していくべきである。</p> <p>「高速炉（もんじゅ）に対する SA 対策-II までの安全審査要件の整備」及び「高速炉の安全規制に必要な安全評価手法、解析コードの整備」においても本プロジェクトと関連する研究が実施されており、これらを整理すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成 26 年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成 26 年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成 25 年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(A72) 高速炉（もんじゅ）に対する SA 対策-II までの安全審査要件の整備	
実施期間	平成 25 年度～平成 29 年度	
担当課	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成 25 年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成 26 年度の方針	継続 ・ <input type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、高速炉（もんじゅ）の重大事故等対策の安全審査に活用される研究であり、今後も継続していくべきである。</p> <p>「高速炉（もんじゅ）に対する SA 対策-I までの安全審査要件の整備」及び「高速炉の安全規制に必要な安全評価手法、解析コードの整備」においても本プロジェクトと関連する研究が実施されており、これらを整理すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成 26 年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成 26 年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成 25 年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(A73) 高速炉の安全規制に必要な安全評価手法、解析コードの整備	
実施期間	平成19年度～平成29年度	
担当課	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトにおける解析コードの開発は、審査等に必要なものに限定し、平成26年度に終了すること。</p> <p>また、「高速炉（もんじゅ）に対するSA対策-Iまでの安全審査要件の整備」及び「高速炉（もんじゅ）に対するSA対策-IIまでの安全審査要件の整備」においても本プロジェクトと関連するプロジェクトが実施されており、これらを整理すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-5. 運転期間延長認可制度及び高経年化対策制度に係る技術的危険の整備	
プロジェクト名	(B11) 高経年化対策技術基盤調査	
実施期間	平成21年度～平成25年度	
担当課	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは調査が主体のものであり、当初の計画では平成25年度で終了予定であったが、今後、原子炉等規制法に基づく運転期間延長認可のための審査手法等を整備する必要があるため、本研究の継続を検討すること。</p> <p>また、「高経年化技術評価高度化事業」及び「電気・計装設備の長期健全性評価技術調査研究（Phase-2）」においても本プロジェクトと関連するプロジェクトが実施されており、これらを整理すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-5. 運転期間延長認可制度及び高経年化対策制度に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(B12) 電気・計装設備の長期健全性評価技術調査研究 (Phase-2)	
実施期間	平成25年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官 (システム安全担当) 付	
プロジェクトの計画 (平成25年度) に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 <small>(注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、電気・計装設備の長期健全性評価に関する審査に活用される研究であり、今後とも継続していくべきである。</p> <p>「高経年化対策技術基盤調査」及び「高経年化技術評価高度化事業」においても同様の研究が実施されており、これらを整理すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で (プロジェクトの統合を含む。) 継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-5. 運転期間延長認可制度及び高経年化対策制度に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(B13) 低炭素ステンレス鋼 SCC 進展への中性子照射影響実証	
実施期間	平成19年度～平成25年度	
担当課	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗し、平成25年度で終了した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ 見直し ・ <input type="checkbox"/> 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトにより、低炭素ステンレス鋼の SCC 進展速度は低照射量領域においても非照射材に比べて増加すること等が明らかとなった。 これらの成果については、NRA 技術レポートとして公表すること。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-5. 運転期間延長認可制度及び高経年化対策制度に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(B14) PWSCC 健全性評価法検証	
実施期間	平成22年度～平成25年度	
担当課	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗し、平成25年度で終了した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・無	
平成26年度の方針	継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトにより、ニッケル基合金のPWSCCに対する健全性評価に関する知見が得られた。これらの成果については、NRA 技術レポートとして公表すること。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	4. 核燃料サイクル	
研究分野名	4-2. 再処理施設における高経年化対策の妥当性評価に係る技術的知見の整備の整備	
プロジェクト名	(C11) 商用再処理施設保守管理技術等に係る研究	
実施期間	平成24年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、再処理施設の高経年化対策の妥当性評価に活用される研究であり、今後とも継続していくべきである。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	4. 核燃料サイクル	
研究分野名	4-1. 放射性物質の貯蔵・輸送に係る審査のための技術的知見の整備	
プロジェクト名	(G21) 中間貯蔵施設基準体系整備事業	
実施期間	平成17年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは当初の計画を前倒しして進捗した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、今後の輸送貯蔵キャスク（金属キャスク）の妥当性評価に関する研究であり、当初の計画を前倒しして進めた。</p> <p>「使用済燃料貯蔵施設に係る解析コード改良整備」、「核燃料輸送物に係る解析コード改良整備」及び「中間貯蔵設備長期健全性等試験」においても、本プロジェクトと関連する研究が実施されており、これらを整理すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(G22) 使用済燃料貯蔵施設に係る解析コード改良整備	
実施期間	平成17年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 ^{注)}	
	コメント	<p>本プロジェクトは、審査等に活用される使用済燃料貯蔵を対象とした解析コードの改良に関する研究であり、今後ともを継続していくべきである。</p> <p>「中間貯蔵施設基準体系整備事業」、「核燃料輸送物に係る解析コードの改良整備」及び「中間貯蔵設備長期健全性等試験」においても本プロジェクトと関連する研究が実施されており、これらを整理すること。</p> <p>具体的な審査における安全解析書の妥当性確認のための解析作業の必要性等を踏まえ、研究計画には、成果として、「解析処理速度の向上」ではなく、熱流動、構造、温度分布、動的振動等の妥当性確認に利用される国産コードの開発等どのように成果が活用されるかを明記すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(G23) 核燃料輸送物に係る解析コード改良整備	
実施期間	平成20年度～平成26年度	
担当課	安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、審査等に活用される核燃料輸送物を対象とした解析コードの改良に関する研究であり、今後とも継続していくべきである。</p> <p>ただし、「中間貯蔵施設基準体系整備事業」、「使用済燃料貯蔵施設に係る解析コード改良整備」及び「中間貯蔵設備長期健全性等試験」においても本プロジェクトと関連する研究が実施されており、これらを整理すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(D11) 廃止措置に関する調査	
実施期間	平成15年度～平成26年度	
担当課	安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。成果が JNES RE レポート「原子力施設の廃止措置終了における規制の在り方」等としてまとめられている。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ 見直し ・ <input checked="" type="checkbox"/> 終了 <small>注)</small>	
	コメント	一部の調査を除き、廃止措置の終了確認基準の整備のための技術的知見が得られたことから、本プロジェクトを平成25年度で終了させ、平成26年度からは調査業務を通してガイド類の整備等に貢献すること。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	5. バックエンド	
研究分野名	5-1. クリアランス確認のための技術的知見の整備	
プロジェクト名	(D12) クリアランス制度に関する調査	
実施期間	平成18年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。これらの成果が、浜岡原子力発電所における原子炉等規制法に基づく放射能濃度の測定及び評価の方法の認可に活用されたことは、特に評価できる。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・無	
平成26年度の方針	継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	一部の調査を除き、ウラン取扱施設のクリアランスに関するマニュアル等の整備のための技術的知見が得られたことから、本プロジェクトを平成25年度で終了させ、平成26年度からは調査業務を通してマニュアル等の整備に貢献すること。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(D21) 第二種埋設事業の安全審査基準等に関する調査	
実施期間	平成15年度～平成25年度	
担当課	安全技術管理官（核燃料・廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗し、平成25年度で終了した。 成果が JNES RE レポート「低レベル放射性廃棄物処分における偶発的な人為事象に対する埋設施設の物理的抵抗性の検討」等としてまとめられていることは評価できる。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ 見直し ・ <input checked="" type="checkbox"/> 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトにより、第二種埋設事業の安全審査に必要な技術的知見が計画通り得られた。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(D22) 地層処分安全解析コード改良整備等	
実施期間	平成24年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	新規制基準への対応が必要となった。また、地層処分の見通しが立っていない状況を受けて、福島第一原子力発電所事故の対応に注力する必要性が生じた。
平成26年度の方針	継続 ・ 見直し ・ <input type="checkbox"/> 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトの成果は、地層処分研究のみならず、福島第一原子力発電所サイトにおける地下水流動解析にも活用可能であると考えられる。</p> <p>福島第一原子力発電所事故対応が喫緊の課題である現状を踏まえ、地層処分を目的とした研究は平成25年度で終了した上で、平成26年度以降、本プロジェクトで得られた成果を活用し、福島第一原子力発電所事故対応プロジェクトの一環として、地下水流動解析等を実施していくこと。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(D23) 地層処分に関する調査	
実施期間	平成22年度～平成26年度	
担当課	安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	特記事項
	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成	安全評価における規制としての着眼点の整理・抽出及び直接処分に係る課題及び規制の着眼点の抽出研究以外は計画どおり進捗している。 安全評価における規制としての着眼点の整理・抽出等の研究については、東京電力福島第一原子力発電所の汚染水漏洩対策に優先的に対応したため実施を中止した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	東京電力福島第一原子力発電所において汚染水の漏洩が発覚し、原子力規制委員会として迅速に対応しなければならない状況が生じた。
平成26年度の方針	継続 ・ 見直し ・ <input checked="" type="checkbox"/> 終了 <small>注)</small>	
	コメント	福島第一原子力発電所事故対応が喫緊の課題である現状を踏まえ、地層処分を目的とした研究は平成25年度で終了した上で、平成26年度以降、本プロジェクトで得られた成果を活用し、福島第一原子力発電所事故対応プロジェクトの一環として、燃料デブリ等、事故プラントで発生した廃棄物の処理・処分に係る検討を実施していくこと。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	5. バックエンド	
研究分野名	5-2. 廃棄物埋設に係る審査のための評価技術の整備	
プロジェクト名	(D24) 廃棄物埋設の規制基準に係る研究	
実施期間	平成25年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、廃棄物埋設に係る評価基準を整備するための研究であり、今後とも継続していくべきである。</p> <p>今後、新型廃棄体（角形容器）等について、現行規制基準の適用性を確認する必要があることから、本プロジェクトの重要性は高い。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（プロジェクトの統合を含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(E11) 複合災害時における原子力防災活動要領の構築	
実施期間	平成23年度～平成25年度	
担当課	安全技術管理官（シビアアクシデント担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通りに進捗し、平成25年度で終了した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ 見直し ・ <input type="checkbox"/> 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>地方自治体が独自に避難時間推計 (ETE) の計算を実施し、その結果を地域防災計画へ反映することができるよう「ETEガイドライン」を取りまとめ、公表していくべきである。</p> <p>今後は、これまでに得られた知見を活用し、避難、屋内退避、安定ヨウ素剤の服用等の住民防護対策をより低リスクで合理的に実施するため、地域防災計画への ETE 結果の活用や避難時の被ばく影響等の技術的データを整備すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で (複数プロジェクト間の組換えを含む。) 継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(E12) 防護活動における実効性向上の検討	
実施期間	平成23年度～平成25年度	
担当課	安全技術管理官（シビアアクシデント担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗し、平成25年度で終了した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ 見直し ・ <input checked="" type="checkbox"/> 終了 ^{注)}	
	コメント	<p>本プロジェクトにおいて得られた、EAL（緊急時活動レベル）に関する技術的知見については、NRA 技術報告として公表していくべきである。</p> <p>これまでの成果を踏まえて今後は、事業者の提出する EAL の妥当性の評価及び原子力災害対策指針で要求している EAL の各項目の妥当性を検証するために必要な技術的知見を整備すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-3. 重大事故に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(E21) アクシデントマネジメントの知識ベース整備	
実施期間	平成15年度～平成26年度	
担当課	安全技術管理官（シビアアクシデント担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、審査に活用される重大事故に係る解析コードの整備に関する研究であり、今後とも継続していくべきである。</p> <p>特に、複雑な物理現象のため、不確かな要素が多く含まれる格納容器内での溶融炉心とコンクリートの相互作用（MCCI）、溶融炉心/冷却材相互作用（FCI）、水素燃焼等に関する評価手法の整備は、重要性の高い研究である。</p> <p>これまでに得られた MCCI 等の成果を NRA 技術報告として公表すること。</p> <p>また、JAEA 安全研究センターと引き続き連携をとりつつ研究を遂行すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-3. 重大事故に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(E22) シビアアクシデント晩期の格納容器閉じ込め機能の維持に関する研究	
実施期間	平成17年度～平成26年度	
担当課	安全技術管理官（シビアアクシデント担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、新規規制基準に基づく重大事故対策の有効性評価の審査に活用される研究であり、今後とも継続していくべきである。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-1. 安全解析手法、解析コードの整備	
プロジェクト名	(E23) シビアアクシデント試験と国産解析コード開発	
実施期間	平成24年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（シビアアクシデント担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ 無	
平成26年度の方針	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、燃料デブリの臨界評価手法に係わる国産コードの開発及びコードの妥当性を評価するための試験を行うものであり、今後も本プロジェクトを継続していくべきである。</p> <p>本国産解析コードの開発及び同開発に不可欠なシビアアクシデント試験は、我が国として継続的かつ安定的に、シビアアクシデント対策、アクシデントマネジメント策、防災対策等を強化していくために不可欠な研究である。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-3. 重大事故に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(E24)シビアアクシデントの事故シナリオに係わる知見の整備	
実施期間	平成25年度～平成27年度	
担当課	安全技術管理官（シビアアクシデント担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	<input type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、重大事故の発生時の事故進展や対策に関する審査に活用される研究であり、今後とも継続すべきである。 研究計画には、対象プラントの種類を明記すること。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で(複数プロジェクト間の組換えを含む。)継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-5. 火災防護に係る審査のための技術的知見の整備	
プロジェクト名	(E31) 火災防護対策の高度化に係わる調査・試験	
実施期間	平成22年度～平成27年度	
担当課	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	<p>本プロジェクトは計画通り進捗している。</p> <p>これらの成果が、「発電用原子炉及びその附属施設の火災防護に係る審査基準」、「原子力発電所の内部火災影響評価ガイド」及び「原子力発電所の外部火災影響評価ガイド」に活用されていることは、特に評価できる。</p>
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・無	
平成26年度の方針	継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、新規制基準に基づく火災防護の審査に活用される研究であり、今後も研究を継続する必要がある。</p> <p>高エネルギーアーク火災に関して規制基準を整備するための技術的知見を取得するとともに、「実用発電用原子炉及びその附属施設の火災防護に係る審査基準」に基づき事業者が実施する火災防護対策の有効性を評価するため、定量的な火災評価手法の整備が必要であることから、本プロジェクトの重要性は高い。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-6. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象のリスク評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(F11) リスク情報活用方策の検討と試行	
実施期間	平成16年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（シビアアクシデント担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、PRAの活用に関する研究であり、今後とも継続していくべきである。 「原子力規制委員会がリスク情報を活用するための基盤整備」においても本プロジェクトと関連する研究が実施されており、これらを整理すること。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-6. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象のリスク評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(F12)原子力規制委員会がリスク情報を活用するための基盤整備	
実施期間	平成16年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（シビアアクシデント担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、PRAモデルや手法の高度化及びPRAの品質確保に活用される研究であり、今後とも継続していくべきである。</p> <p>「リスク情報活用方策の検討と試行」においても本プロジェクトと関連する研究が実施されており、これらを整理すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で(複数プロジェクト間の組換えを含む。)継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-6. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象のリスク評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(F21) 安全規制へのリスク情報活用（加工施設）	
実施期間	平成24年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成	<p>本プロジェクトは、ウラン加工施設の設工認に係る解釈集案等の作成を除き、計画通り進捗している。</p> <p>成果を取りまとめた JNES-RE レポート「六フッ化ウラン漏えい事故時の化学的影響とその評価方法」が公表された。このレポートは、原子力規制委員会の「ウラン燃料加工施設における六フッ化ウランの取り扱いが一般公衆に及ぼす化学的影響に関する報告の提出について（指示）」に活用されており、特に評価できる。</p> <p>上述の対応のため、ウラン加工施設の設工認に係る解釈集案等の作成については中止しているが、各種の情勢変化を踏まえた柔軟な対応を行っており、本計画変更は妥当であると評価する。</p>
対外状況の変化	対外状況の変化	
	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<ul style="list-style-type: none"> 原子炉等規制法が改正され、核燃料サイクル施設に係る新規制基準策定のための支援を行う必要が生じた。
平成26年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 ^{注)}	
	コメント	<p>本プロジェクトは、事業者が行う加工施設の ISA（総合安全解析）の妥当性確認のための研究であり、今後とも継続していくべきである。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-6. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象のリスク評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(F22) 安全規制へのリスク情報活用（再処理施設）	
実施期間	平成24年度～平成28年度	
担当課名	安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成	リスク情報活用策案の作成を除き、本プロジェクトは計画通り進捗している。 新規制基準策定支援を優先したため、リスク情報活用策案の作成を中止しているが、同支援に関連して行った、地震を起因としたPRA手順の整備に関する成果が、「再処理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則の解釈」の策定等に活用されており、特に評価できる。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	原子炉等規制法が改正され、核燃料サイクル施設に係る新規制基準策定のための支援を行う必要が生じた。
平成26年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、事業者が行う再処理施設のPRAの妥当性確認に活用される研究であり、今後とも継続していくべきである。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(F31) 事故・トラブル情報の有効活用のための規制要件整備	
実施期間	平成25年度～平成26年度	
担当課名	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	特記事項
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、ソフト面の安全規制に活用される研究であり、今後も研究を継続する必要がある。 「人・技術・組織（MTO）分野に関する調査」においても本プロジェクトと関連する研究が実施されており、これらを整理すること。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-1. 人的・組織的要因に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(F32) 福島第一原子力発電所事故における機構の緊急時対応の整理と要因分析に基づく緊急時対応の改善に係る研究	
実施期間	平成24年度～平成25年度	
担当課	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは、外部技術支援機関としての能力向上に向けた研究であるため、JNESの原子力規制委員会との統合が決定されたことに伴い中止した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	原子力規制委員会と JNES の統合が決定された。
平成26年度の方針	継続 ・ 見直し ・ <input checked="" type="checkbox"/> 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、福島第一原子力発電所事故における原子力安全基盤機構の緊急時対応の整理と要因分析を行う研究であったため、原子力安全基盤機構の原子力規制委員会との統合を踏まえ終了すること。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で(複数プロジェクト間の組換えを含む。)継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-4. 火山影響に係る審査のための技術的知見の整備	
プロジェクト名	(F41) 火山影響評価に係わる技術的知見の整備	
実施期間	平成25年度～平成27年度	
担当課	安全技術管理官（地震・津波担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 ^{注)}	
	コメント	<p>本プロジェクトは、新規制基準に基づき、事業者が実施する火山影響評価に対する妥当性確認に活用される研究であり、今後とも継続していくべきである。</p> <p>大規模噴火に係る技術的知見の更なる拡充を図る必要がある。本プロジェクトの重要性は高い。</p> <p>そのため、平成27年度までに得られるマグマだまりと地殻変動量の関係性を示す技術的知見等を踏まえ、平成28年度以降、長期的かつより詳細な研究を実施し、技術的知見を拡充していくことについて検討すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	2. 特定原子力施設	
研究分野名	2-3. 破損燃料輸送に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(G11) 破損燃料輸送に係る技術調査	
実施期間	平成24年度～平成26年度	
担当課	安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	存 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、福島第一原子力発電所からの破損燃料取り出しに係る実施計画認可申請に対する安全審査に活用する研究であり、海外における事例等に関して技術的知見を蓄積することは継続すべきである。</p> <p>平成25年度の調査結果から新たな課題として抽出された破損燃料輸送時の水素発生については、安全規制への活用先を検討した上で、必要な技術的知見を取得すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(G12) 海水腐食評価事業	
実施期間	平成24年度～平成26年度	
担当課	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、海水が流入したプラントの材料劣化等に係る研究であり、今後とも継続していくべきである。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的分野	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(H11) 周辺住民の被ばく線量評価及び中間貯蔵施設の技術基準等に関する検討	
実施期間	平成22年度～平成26年度	
担当課	安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	<p>本プロジェクトは平成26年度までの研究計画であったものの、計画初期の成果が平成25年度をもって達成されている。</p> <p>これらの成果が、JR常磐線、国道6号線の開通等、インフラの復旧活動に活用されていることは、特に評価できる。</p>
対外状況の変化	対外状況の変化	
	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ 見直し ・ <input checked="" type="checkbox"/> 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>周辺住民の被ばく線量評価に関する検討については計画初期の成果が達成されていること、中間貯蔵施設の技術基準等に関する検討については原子力安全基盤機構の原子力規制委員会との統合を踏まえ、終了すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-1. 人的・組織的要因に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(J13) 人・技術・組織 (MTO) 分野に関する調査	
実施期間	平成20年度～平成26年度	
担当課	安全技術管理官 (システム安全担当) 付	
プロジェクトの計画 (平成25年度) に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、ソフト面の安全規制に活用される研究であり、今後も研究を継続する必要がある。</p> <p>「事故・トラブル情報の有効活用のための規制要件整備」においても本プロジェクトと関連する研究が実施されており、これらを整理すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で (複数プロジェクト間の組換えを含む。) 継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的分野	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(一) 地層処分の安全審査に向けた評価手法等の整備	
実施期間	平成22年度～平成26年度	
担当課	安全技術調査官（核燃料廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ 見直し ・ <input checked="" type="checkbox"/> 終了 ^{注)}	
	コメント	福島第一原子力発電所事故対応が喫緊の課題である現状を踏まえ、地層処分を目的とした研究は平成25年度で終了した上で、平成26年度以降、本プロジェクトで得られた成果を活用し、福島第一原子力発電所事故対応プロジェクトの一環として、燃料デブリ等、事故プラントで発生した廃棄物の処理・処分に係る検討を実施すること。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	4. 核燃料サイクル	
研究分野名	4-1. 放射性物質の貯蔵・輸送に係る審査のための技術的知見の整備	
プロジェクト名	(一) 中間貯蔵設備長期健全性等試験	
実施期間	平成24年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input type="checkbox"/> 見直し ・ 終了	
	コメント	<p>本プロジェクトは、中間貯蔵設備の長期健全性等の検証を行う研究であり、今後とも継続していくべきである。</p> <p>ただし、「中間貯蔵施設基準体系整備事業」、「使用済燃料貯蔵施設に係る解析コード改良整備」及び「核燃料輸送物に係る解析コード改良整備」においても本プロジェクトと関連する研究が実施されており、これらを整理すること。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-1. 安全解析手法、解析コードの整備	
プロジェクト名	(一) 燃料等安全高度化対策事業	
実施期間	平成18年度～平成29年度	
担当課	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、安全審査ガイド、安全審査マニュアルへの反映を通じて、改良型燃料が装荷された原子炉の安全審査に活用される研究であり、今後とも継続していくべきである。</p> <p>事業者の改良型燃料導入シナリオを踏まえ、可能な限り研究計画において柔軟に対応できるようにしておくこと。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-6. 原子炉水質管理技術に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(一) 原子炉水質管理技術の高度化対策事業	
実施期間	平成24年度～平成31年度	
担当課	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトの成果を原子力安全規制に活用する手法を視野に入れ、当初計画されていた照射試験の要否を含め研究計画を見直すこと。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-5. 運転期間延長認可制度及び経年化対策制度に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(一) 高経年化技術評価高度化事業	
実施期間	平成23年度～平成27年度	
担当課	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通りに進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ <input type="checkbox"/> 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	「高経年化対策技術基盤調査」及び「電気・計装設備の長期健全性評価技術調査研究（Phase-2）」においても本プロジェクトと関連する研究が実施されており、これまでに得られた成果を他の研究プロジェクトに反映した上で、これらを整理すること。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-1. 安全解析手法、解析コードの整備	
プロジェクト名	(一) 軽水炉燃材料詳細健全性評価	
実施期間	平成18年度～平成28年度	
担当課	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通りに進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、運転期間延長認可に活用される原子炉圧力容器の中性子照射脆化等に関する研究であり、今後とも継続していくべきである。</p> <p>従来計画していた JAEA の JMTR で試験材料の照射の見通しが立たない中、既往研究で用いた照射材を代替材料として活用する等、柔軟な対応がなされていることは評価できる。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	1-2. 軽水炉の事故時の熱流動現象に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(一) 軽水炉の事故時熱流動の技術的知見の整備	
実施期間	平成24年度～平成31年度	
担当課	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	本プロジェクトは、軽水炉の事故時の熱流動に関する実験を主体とし、成果は国産システムコード開発の検証に活用される研究であり、今後とも継続していくべきである。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	1. 原子炉施設	
研究分野名	2-2. 燃料デブリの臨界評価手法に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(一) 臨界解析コードの信頼性向上に向けた調査	
実施期間	平成24年度～平成25年度	
担当課	安全技術管理官（システム安全担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	特記事項
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗し、平成25年度で終了した。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ 見直し ・ <input checked="" type="checkbox"/> 終了 ^{注)}	
	コメント	重大事故後の燃料デブリ臨界管理に係る対策や安全評価に活用可能な成果が得られており、本成果が平成26年度から開始される「東京電力福島第一原子力発電所燃料デブリの臨界評価手法の整備」の中で活用されることを期待する。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	9. 横断的課題	
研究分野名	9-3. 技術基盤の確保・維持	
プロジェクト名	(-) 地層処分に係る地質評価手法等の整備	
実施期間	平成22年度～平成26年度	
担当課	安全技術管理官（核燃料廃棄物担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	特記事項
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	本プロジェクトは計画通り進捗している。
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	継続 ・ 見直し ・ <input type="checkbox"/> 終了 ^{注)}	
	コメント	福島第一原子力発電所事故対応が喫緊の課題である現状を踏まえ、地層処分を目的とした研究は平成25年度で終了した上で、平成26年度以降、本プロジェクトで得られた成果を活用し、福島第一原子力発電所事故対応プロジェクトの一環として、燃料デブリ等、事故プラントで発生した廃棄物の処理・処分に係る検討を実施すること。
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-1. 基準地震動策定及び地震動・地盤評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(一) 原子力施設における断層等の活動性判定に係る評価手法の調査研究	
実施期間	平成24年度～平成29年度	
担当課	安全規制管理官（地震・津波安全対策担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成	<p>本プロジェクトでは、地質構造探査における陸域調査測線の状況把握と海域測線に関わる調査の実施に当たり、関係各所との調整の結果、工程を変更する必要が生じたため、計画を変更し平成26年度に繰り越すこととしている。</p> <p>本計画の変更は外部要因によるものであり、妥当であると評価する。</p>
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有・無	
平成26年度の方針	継続 ・ 見直し ・ 終了 ^{注)}	
	コメント	<p>本プロジェクトは、活断層の活動性評価手法に関する技術的知見を取得する研究であり、今後とも継続していくべきである。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト

H25 年度 安全研究年次評価		
分類	3. 共通要因故障を引き起こす内部・外部事象	
研究分野名	3-1. 基準地震動策定及び地震動・地盤評価に係る技術的知見の整備	
プロジェクト名	(一) 福島第一事故を踏まえた震源極近傍の地震動評価の高度化	
実施期間	平成25年度	
担当課	安全規制管理官（地震・津波安全対策担当）付	
プロジェクトの計画（平成25年度）に対する達成状況	達成状況	コメント
	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成	<p>本プロジェクトでは、調査の過程で、最終成果に影響を与える可能性のある新たな知見が示されたことから、それを追加の解析にて精査する必要性が生じたため、計画を変更し平成26年度に繰り越すこととしている。</p> <p>地震動評価の高度化を目的とする本プロジェクトにおいて、新たな知見を反映することは必要なことであり、本計画変更は妥当であると評価する。</p>
対外状況の変化	対外状況の変化	
	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
平成26年度の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 見直し ・ 終了 <small>注)</small>	
	コメント	<p>本プロジェクトは、地震動評価の高度化を行う研究であり、今後とも継続していくべきである。</p>
特記事項		

注) 継続 : 平成26年度に継続すべきプロジェクト

見直し : 平成26年度に計画の一部を見直した上で（複数プロジェクト間の組換えを含む。）継続すべきプロジェクト

終了 : 平成25年度に、計画期間が満了した、若しくは計画で予定していた成果が前倒して達成された、又は各種情勢の変化を踏まえ計画を終了するプロジェクト